

会員寄稿

「修学旅行報告」

第2学年主任 伊豫田 孝幸

本年度の修学旅行は、5月16日(火)～19日(金)に、「関東」「北海道」の2コースで実施しました。旅行後に実施したアンケートでは、修学旅行全体の満足度について、「大変満足」「やや満足」が、関東：96.7%、北海道：97.5%と、ほとんどの生徒が今回の旅行について満足してくれたようです。天候にも恵まれ、充実した思い出に残る修学旅行となりました。以下、旅行後に作成してもらった「修学旅行レポート」をコース別に紹介致します。なお、このレポートの秀作は文化祭で展示する予定ですので御覧ください。

関東班(154名)

愛媛を飛び立ち降り立った東京は、どこを見ても、どこを歩いても、人がたくさんいました。見上げないようにしようと思っても、ついつい高層ビルを見上げてしまいました。(中略) 3日目は、東京都内の自主研修をしました。途中豪雨に見舞われたけれど、班のみんなが行きたかった所を回ることができました。最初に行った東京国立博物館では、日本美術の流れを学ぶことができました。縄文時代から江戸時代までの作品などが展示されていて美しかったです。歴史的なものでも、私には新鮮で新しく感じられ、たくさん発見がありました。そして、もっと深く日本の文化を知りたいと思うようになりました。また、この見学を通じて、日本の重要な歴史的遺物を後世に伝え残していく役割を担っている博物館や美術館という存在は、なくてはならないものなんだと実感しました。(中略) 3日目の最後には楽しみの一つにしていた芸術体験鑑賞がありました。私は、劇団四季でアラジンを見ました。大掛かりなステージに立つ登場人物一人ひとりが生き生きと生きていて、私はその表現力豊かな演技にひきつけられ、時間を忘れて見入ってしまいました。(中略) 関東への修学旅行は、大洲では体験できないことの連続で日本の歴史にも多く触れることができ、また、大洲を離れて、改めてふるさとのよさを感じる事ができた3泊4日になりました。最後に、この旅行に際し、私たちを引率して下さった先生方、費用を出してくれた両親、修学旅行の準備に関わって下さった方々全員に感謝しています。ありがとうございました。(24R智葉瑛海)



北海道班(40名)

待ちにも待った修学旅行、楽しい時間は瞬く間に過ぎていきました。まず、松山空港まで行くバスの中でテンションを使い果たしました。飛行機に乗り、羽田空港に着いた頃にはもうへとへとでした。しかし新千歳空港行きの方が1時間遅れ、少し休憩することができました。(中略) 北海道に着き、雨が降っていたせいか凍えるような寒さでした。吐く息が白く、別世界だと思いました。一日目、まだ雪が残っている道をひたすら走ってバスはアイヌ民族博物館に向かいました。アイヌ民族博物館は白老(しらおい)という地域にあり、これはアイヌ語が語源の地名です。他にも小樽、札幌、知床など北海道の数多くの地名がアイヌ語が語源ということを知りました。一時間余りの講義を聞き終わると、アイヌ民族の古式舞踊を見ました。「ムックリ」という竹でできた楽器での演奏を聞いたり「イヨマンテ」という熊の霊を送る踊りを鑑賞しました。アイヌ独特の言葉を発しながらの踊りはこれまでアイヌの人々が築いてきた歴史を感じることができました。(中略) 最終日は羊ヶ丘展望台に行きました。かの有名なクラーク博士と一緒に写真を撮ることができました。展望台からは銀色に輝く札幌ドームや羊たちを見ることができました。北海道での最後の食事はカレーでした。それもまさかの「シーフードカレー」です。「シーフード」を食べられない僕は「シーフード」をみんなにあげて「シーフード」のない「シーフードカレー」を「フーフー」しながら食べました。



この北海道旅行は僕の人生の中で忘れられない思い出になりました。やっぱり北海道の料理は美味しくて、特に牛乳はコクがあり、ソフトクリームは濃厚でした。本当に幸せな4日間でした。この旅行に行けたのも親がお金を出してくれたり、先生が計画してくださったりと、たくさんの人が関わっていると思います。感謝の気持ちを忘れず、これからも充実した日々を送っていきたいです。(21R中津優翔)